

長尾 和宏 先生

拝啓 向暑の候 梅雨明けの待たれるこの頃

先生におかれましては、益々ご健勝のことと存じ上げます。

今回、先生に感謝の気持ちをお伝えしたく、手紙を書かせて頂きました。

昨年12月末に先生に診察して頂いた、私の祖父の[REDACTED]が5月5日に
亡くなりました。12月22日に初めて長尾先生に診て頂いて、「ワクチン後遺症
です」と診断して頂いた時、やっぱりかという気持ちと、診断してもらえた
嬉しさとか「混じ」た何とも言えない気持ちで涙が止まらなかった事を
今でも鮮明に思い出します。先生が、祖父の肩をさすりながら「治そうね」
と言って下さったその優しさに、祖母も母も私も癒されました。1週間後
の再診時にアルツハイマー型認知症と診断され、「前の時は見抜け
なかった、ごめんね」と言われた時は、誠実な先生に「な」と信頼感が
胸がいっぱいになりました。また、先生は何かを察知されたのか、
帰り際に、「明日10時半に僕が往診に行くわ、いける？」と聞いて
下さった時、先生に直接診て頂けるんだととても嬉しかったです。

翌日、私はバスで祖父母の家に向かっている途中、先生の往診時間の
約20分前に、祖父が自分で首を包丁で刺して兵庫医大に運ばれた時、
先生にキャンセルの電話をさせて頂きました。その時も、「そうかー力不足で
ごめんね、そばについてあげてね。また連絡するから」と言って下さった時
の心強さと、たった2回しかお会いしてはいないのにそんな風に言って

下されたことがとても嬉しかったです。

その後 首のopeは成功し、2月末まで兵庫医大に入院、歩行器で立っ練習までしました。食事がとれないのは変わらず、3月から西宮の谷向病院に転院し、嚥下訓練などしました。食欲は戻らず、筋力も低下する一方でした。一度、祖母と母が面会を言われた時には、意思疎通も良好で、祖父も「がんはって食べたはあ」と退院する意欲もありました。しかし、一度誤嚥性肺炎になり、回復したものの、ゴールデンウィークに入って2度目の誤嚥性肺炎を起しました。

5月3日に面会OKとなり、私が会いに行った時には、ネーザルバイポーラをつけていてもSpO₂69%、かたよりの努力呼吸で「爪床チアーセ」も出ており、とても苦しそうで、なぜ優しい祖父がこんな目に合うのかと涙が止まりませんでした。

翌日にせくたつてからの方が穏やかな顔をしていて、ワクチを打ってから約9ヶ月、やっと苦しみから解放されたその表情を見て、どこかホッとした自分もいました。

3月に長尾クリニックの患者会で、祖父のことを泣きながら話したのは私の母です。先生が「在宅で僕が診せよと言って下された」と母は大変喜んでいました。その切はありがとうございます。私も在宅でみたかったのですが、祖母と叔父が「病院から出ることを不安からて反対され、先生に言ひて頂くことが叶わず残念でした。在宅の大変さも想像できたので、強く勧められませんでした。

12月25日のワクチン後遺症のシンポジウムに行ってから、自分で情報収集できるようにと、先生が映画にあそび仰っていたので十三にも観に行きました。そこで、有志看護師の会が立ち上がった話を先生がされていたのを聞いて、これだ!と思い、今は私も会員になって微力ながら活動させて頂いております。祖父のワクチン後遺症というきっかけではありましたが、長尾先生のような患者さんにとことん誠実な先生に出会えたこと、感謝しています。

今私は助産師として産科の有床診療所に勤めていますが、妊産婦と新生児をとりまくワクチンとコロナの問題は根深く、一人で太刀打ちできず、葛藤の日々です。

先生へのお礼の手紙のはおかげで、私の思いが全面に出してしまったことお詫言下さい。祖父がせくなって、患者家族ではなく遺族になってしまいました。先生に診察して頂いた2回の診察のありがたさ、一生忘れません。本当はもう少し早い時期にお礼をお伝えしたかったのですが、気持ちの整理がつかず、祖父の事を想うと涙が出て筆が止まってしまいました。今月、四十九日が無事に済み、私達家族の中でも一区切りついた次第です。祖父母は大変仲が良く、祖母は祖父の七骨に糸通して「死ぬ時は一緒にいこうって言うたせんか」と何度も言っていたので、あとを追わないか大変心配していたので、今は徐々に明るさを取り戻しつつあり、一安心といっているところです。

先生におかれましては、日々の通常診療に加えて講演会や有志医師の会の活動などご多忙とは存じますが、どうかお身体ご自愛下さいませ。本当にありがとうございます。

心急ぐまいに舌し筆舌し文のほど、お詫び申し上げます。
最後までお読み頂きありがとうございます。

敬具

追伸. 8月20日、ポータルサイトでの有志の会のお疲れ様会にて
お目にかかれのを楽しみにしております。

